

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300128		
法人名	社会福祉法人 えぼっく		
事業所名	グループホーム ほこしあ		
所在地	北広島市輝美町2番地3		
自己評価作成日	R4年3月6日	評価結果市町村受理日	令和4年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に力を入れている事として、法人理念、事業方針を軸とした自立支援に特化したケアプラン作成です。個別のリスクマネジメントへの取り組みを行い、自立した生活の場を提供したいと思っています。ハード面で、事業所の構造や広さを利用して、コロナ禍で外出できない中、フロアや廊下を散歩したりと運動不足解消となった。又行事も室内で感染対策を講じながら、例年と変わりなくほぼ実施できています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0191300128-00&Ser](http://mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300128-00&Ser)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR北広島駅から徒歩で約10分、緑に囲まれた住宅街の一角に「グループホームほこしあ」があります。平成28年に現事業所名となり、令和3年に法人本部がグループホームの一階に移設されたのを機に建物の改修を行っています。建物に沿った傾斜のある道路を有効に利用し、法人本部と障がい者施設のある1階、2ユニットの「グループホームほこしあ」は2階でそれぞれ道路に面した出入口があります。運営母体である「社会福祉法人えぼっく」は北広島市を中心に近郊の自治体へ障がい者、高齢者、生活困窮者への多角的な福祉事業を展開し、青色防犯パトロール事業を法人独自で行うなど地域の細かな福祉ニーズに応えています。一人ひとりの思いや願いに耳を傾け実践していく、という法人の理念は「グループホームほこしあ」のサービスの要となっています。昨今の福祉職員の不足対策として、積極的に外国人技能実習生を受け入れ担当寮母を配置して生活全般を支えるなど人材育成の一翼を担っています。令和2年からの新型コロナウイルス感染防止対策で外出活動に制限のある中では、広い室内を利用した運動やレクリエーションを工夫して利用者の健康・安全・安心を支えています。コロナ禍で途絶えてしまった地域交流は、地域貢献案も含めて自治会役員を通じた再開を検討しています。管理者は、ロールプレイングを活用した研修や職員の課題解決力をつける会議運営、気付きを与える面談の実施で、より質の高いサービス提供を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共に、事業方針を事業所内に掲示し共有している。	法人の理念を事業所内に掲示し、その理念に沿った事業方針を年度ごとに作成しています。新年度に向けて事業所独自の理念を検討しています。	地域密着型サービスは、利用者が地域でその人らしい暮らしを続けることを支援することが求められます。それを具現化した理念の作成と、その理念が反映したケアを提供できるよう職員の意識・理解が期待されます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり、地域との関わりは出来ていない。	地域の大学が運営しているカフェや町内の催し物に参加していましたが、コロナ禍ですべて中止となり積極的な交流はできていません。新年度以降は、感染防止に努めながら地域交流を再開する予定となっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で色々な事が中止となり忘れていた。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族への案内を検討していたが、コロナ禍で中止となり実施出来ていない。	コロナ禍での実施が難しく、2カ月ごとに運営状況や活動報告を作成し、家族へ配布しています。	行政、地域、家族による多角的な視点や意見を事業所運営に活かす運営推進会議の開催は、コロナ禍でこそ重要な位置づけとなります。会議の構成者から文書や電話等で確認した課題や意見を検討し、結果を周知することでも協力体制の強化に繋がります。有益な運営推進会議の開催が期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナワクチン接種に際し、市の担当者と連携をとリスムーズに実施出来た。	市の福祉課を中心に新型コロナウイルス対策や各種研修、ワクチン接種に関する情報収集で連携をとり、協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修をはじめ、職員会議時に委員会の開催や振り返りを行った。	身体拘束に関しては指針を定め、委員会を年3回実施しているほか、定期的な研修を重ね職員の気づきの大切さを伝えていきます。職員の理解をより深めるために、ロールプレイング研修を取り入れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	自立支援については、ケアプランで、成年後見人制度はニーズがあるので今後取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、理解し納得いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。	家族の意見は訪問時や利用者の体調報告やケアプラン更新で連絡する際に、日常会話の中で聴きとっています。コロナ禍による面会中止期間中も事業所のHPやSNSで活動内容を発信して、家族の安心に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、カンファレンスや主任会議で、職員の意見等を聞く機会を設けている。	管理者は意見の少ない職員や外国人技能実習生にも問題提起をして、課題や提案を引き出しています。直近では、休憩室・更衣室の改修を機に、休憩時間の充実を図るなど業務改善に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等は、定期的に評価し、職場環境では、十分に休憩が取れる様休憩スペースを新たに設置し環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職以上で職員の状況を報告し、問題に沿った研究を行っている。個別に面談等もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会通し、書面等で、質問や意見を出し、質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや願いを傾聴し、伝えられない方はご家族から聞き取りを行っている。情報は職員間で共有して、関心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から聞き取りを行い、支援の内容等を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持っていただき、共に行うことで関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で会うことが難しいので、電話でご本人の様子をお伝えしたり相談し関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で出来なくなっているが、今後検討していきたいと思います。	コロナ禍で外出できる機会が減った中でも、家族や知人への電話や手紙・年賀状の支援に努めています。2つのユニットの利用者が同じリビングを利用し、事業所内での関係性も継続できるように働きかけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を把握し孤立しないように努めているが、一人一人の状態に合わせて対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の関わりは殆ど無くなってしまいますが、連絡をいただいたり、町でお会いした際はお話を聞き心のフォローが出来るよう努めている。出来る事は対応させてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や会話などから把握できる様努めている。困難な場合はご本人の気持ちに添えるよう検討している。	入居時に本人・家族から希望する生活を伺い、アセスメントを作成しています。日々の生活の中から利用者が何を思い何を願っているかを更に把握するために、職員のスキルアップに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス事業所等からの情報提供やご家族やご本人からの聞き取りから生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状態を観察し、申し送り、生活記録やカンファレンスで確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活記録や職員の情報を踏まえ、モニタリングを行い、介護計画を作成、職員が参加するカンファレンスで確認し決定となる。	担当職員が毎月モニタリングを実施しています。原則半年に一度のケアプラン作成時には全職員によるカンファレンスを経て原案を作成、家族・本人に承諾を得ています。ケアプランに基づく支援と記録方法を工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践が出来ているか、又記録が出来ているか、職員会議で確認、指導を行っている。ケアプランはいつでも閲覧出来る様にファイリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対して柔軟に対応出来る様に努力しているが、今の現状難しい部分もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分。コロナ禍を理由にストップしているのが現実。視点を変え実行しなければならない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係性は築けていて、随時連携をとり、訪問診療や受信対応している。	7割近くの利用者が連携先医療機関の往診を定期的に受診しています。かかりつけ医の受診は市内は管理者が対応し、服薬変更など通院結果は家族へ連絡し、職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問診療の看護師と連携をとり、受診の必要性や対応を相談し、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はソーシャルワーカーと連携し情報共有している。病院関係者との関係づくりについては、固定されているので、幅を広げる必要性はある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、入退院を繰り返すようになった時や、様子変化が見られた時など、ご家族と話し合いを実施し、入居者にとって一番良いであろう方向性を検討している。	「重度化した場合の対応に係る指針」は重要事項説明書と共に入居時に説明し、家族・本人に同意を得ています。軽度な病状で入院した場合でも急激なADL低下で退院不可となるケースもあるため、都度家族の意向を確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講しているが、時間が経っているので、再受講が必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に、シミュレーション型の訓練を行い、色々な災害や時間帯を想定し検討している。地域との協力体制は築けていない。	7月は火災想定での避難訓練、10月は自主災害訓練で火災報知器や消火器の使い方を周知しています。管理者は安全かつ迅速な避難に課題を感じ、日々対策を検討しています。福祉避難所でもあり十分な備蓄品・発電機を準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、言葉遣いには課題あり。	人格の尊重については、研修や職員会議で接遇マナーの重要性を伝え、必要時には面談を実施して職員の意識向上に努めています。	利用者の人格の尊重や接遇マナー、プライバシー尊重について研修、会議、面談を重ね職員の理解に努めていますが、日常的なケアの中では課題のある対応となっています。有効な声掛けや言葉使いを事業所全体で確認することで、ケアの質向上となることが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心掛けているが不十分。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心掛けているが、職員の都合が優先されることが、多くみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えの際一緒に服を選んだり、できない方は職員が状況に合った服をコーディネートしている。朝はもちろん日中を通し身だしなみには気を付けているが、不十分。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に対しても、感染対策が優先で出来ていない。食事が楽しめるように工夫は行っている。	食事は宅配業者の献立・食材で、栄養バランスや豊富なメニューが提供されています。行事食では利用者の要望に応じて職員が作り、ビュッフェ式で楽しめるよう工夫されています。利用者はホットケーキを職員と一緒に作るなど、調理に参加する機会もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供量は個々の状態や体質に考慮し提供している。水分量は制限がある方や過剰摂取の方には調整し提供している。他の方にもバランス良く摂取出来る様に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは実施している。仕上げ磨きなど個々の状態に応じて対応している。訪問歯科のドクターとも連携して口腔内の健康維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に沿った排泄の声掛け等検討して実施している。	排泄に関しては接種水分量とともにタブレットで個別にデータを記録しています。利用者一人ひとりにあった衛生用品の使用やリズムに合わせた声掛けで、自力排泄者は9割を超えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で起こる体調不良や不穏状態を理解し対応している。ほかドクターに相談し、排便のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はこちらで決めている。が、楽しく入浴が出来る様に心掛けている。	利用者の体調や支援内容により、入浴日や時間を事業所主導で決めています。寛いだ時間となるように支援しています。週2回の入浴ほか足浴や清拭で清潔保持に努め、拒否者の心情を察した対応をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態に応じ自室で休んで頂いている。室温調整や必要に応じて湿度の調整も行っている。定期的に又は必要に応じてリネン交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報を、服薬マニュアルと共にファイリングしている。くすりの量や種類の変更、服用に際し観察が必要な時は周知対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやゴミ集め、居室の掃除など職員と一緒にしている。楽しみ事などは、個別に対応出来る様に工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は自粛しているので、外出出来る様になったら、どこどこ行きたいねと、楽しく会話している。	新型コロナウイルス感染拡大を受けて外出は自粛していますが、今年度は「少人数での外出等感染防止に努めて四季の変化を楽しむ」を事業計画の重点項目として、ドライブで紅葉狩りに出かけるなど、徐々に外出活動の再開が図られています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方が不在なので実施なし。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の配慮には常に気に掛け対応している。生活感や季節感の取り入れは不十分。	玄関横には広いイベントスペースがあり、開放感のある窓からは緑豊かな森林が見渡せませす。2ユニットが共有して利用しているリビングの壁は季節にあわせた装飾がされ、利用者は適切な温湿度が保たれた環境の中で、テレビ視聴など寛いで過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆でゲームなどを楽しめる場所、一人でゆっくり過ごせる場所など工夫をしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や愛用している物を持参され使っている。	居室は照明器具が事業所備付で、それ以外の家具や電化製品は利用者が使い慣れたものを配置しています。趣味で収集している陶器の人形や愛用の絨毯を持参するなど利用者本人が居心地よい空間を担保して、安心安全な環境を提供しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、危険な箇所の確認等を行い、配慮している。		